《板書例》

○散文について

駢文

・字数を整え（四字と六字の組み合わせが多い）、対句を基本とする文章。四六駢儷体。

・六朝時代に発達し、唐代以降も形式を重んじる公的な文体として用いられた。

・「令和」の典拠となった「梅花歌序」（『万葉集』）もこの文体で書かれている。

古文

・字数を整えず、漢代以前の文章を手本とする文章。対句も用いるが、形式的になることは避ける。散文。

・韓愈や柳宗元によって作られ、事実の叙述（記事）や作者の主張（論説）に用いられた。

・形式よりも内容が優先されるので、文章を論理によって構成する意識が強い。

○古文の基本要素

・主張

・事例

・比喩

・読者への問いかけ・自己の感慨

「読者への問いかけ・自己の感慨」は最後に来ることが多いが、その他の要素の配置は自由。

《板書例》

●それぞれ何を例えているか

「伯楽」　―優れた人材を見抜き登用する名君・賢相。
「千里馬」―優れた才能のある人物。
「奴隷人」―人の能力を見抜く力のない下級官吏。
「常馬」　―才能のない並みの人。